

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自然環境の良い地域で生活されてきた利用者の今までの生活を重視し、一人ひとりが当たり前の人間らしい生活をたいせつにしていきたい。		地域の活動に積極的に参加させていただけるよう市や町内の方々から教えていただきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアに理念を掲示している。利用者を第一に考え職員、利用者、家族が話し合いを持ち実践できるよう取り組んでいる。		理念を暗唱するだけでなく、言葉に含まれている意味を考え実践していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には、入所前の契約時に説明している。地域の方々には、見やすいところに掲示し、見てもらえるようにした。		地域の方と交流の機会を持つよう、理念を理解してもらえるようにしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者と散歩の時や畑を作っている時など、挨拶をしている。また、近所の方から挨拶や声をかけてもらえるようになった。		違和感を与えないような雰囲気を感じさせないようにホームの周りに気を配っていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭では、利用者の家族の参加だけでなく、地域の方、小学生からの参加していただいている。		老人会に家族の方と参加される方がごく一部であるため祭りなどに参加できるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>まだ、職員が慣れて来たばかりで、精神的に余裕がなかった。</p>		<p>地域の方々から、お茶を飲みに来てもらえるような交流を持って行きたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価することで、日々のケアのあり方やグループホームとはどのようにしていけばよいか再確認することが出来た。</p>		<p>再度、一人ひとりのケアのあり方を検討して、理念に基づいてあんしんのどかに生活してもらいたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者の状態を会議で説明したり、地域とどのように関わっているか。また、行事などを報告し、納涼祭には、参加してもらった。</p>		<p>会議では、職員が知らない地域のことを教えてもらったり、利用者がどう地域と触れ合うことが出来るか検討している。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>月に一度は、市役所へ行き、利用状況の報告、利用者の様子を報告し、アドバイスをもらっている。</p>		<p>職員の研修会を開いてもらったりして、職員の向上を図って行きたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は、深い知識をもっていない。</p>		<p>勉強会を開き知識を身につけていく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内では、利用者の尊厳を重視し日々のケアをするよう徹底している。</p>		<p>今後も虐待のないように、一人ひとりの利用者を大切にしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族には、重要事項の説明でグループホームの考え方を説明し納得していただけるようにしている。面会の時などは、疑問な点などその都度対応している。</p>	<p>利用者の様子を月末に書き、郵送している。それについて疑問があったときには、その都度、説明し理解を得る。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の気持ち、考え、希望を第一に取り入れ、利用者や職員がコミュニケーションを抵抗なく取れるようにしている。</p>	<p>利用者一人ひとりがその人らしく生活が出来るように努めたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月末に個別に手紙を郵送し、利用者の様子を知っていただけるようにしている。面会時でも様子を知らせるようにしている。</p>	<p>家族が集まって話せる機会が持てるようにしたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。現在、意見はまだ出ていない。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、職員会議を開催し、意見交換をし、職員の意見を取り上げ反映している。</p>	<p>職員会議のほかにフロア会議を開催し、意見交換を図っている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の急変などで病院受診の時、職員が家族の代わりに付き添うこともある。</p>	<p>管理者は、全体的な勤務体制を管理している。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホーム内での異動は、現在、実施されていない。</p>	<p>異動が実施されることになった時には、前もって利用者との関わりをもつ時間を十分にとり、安心していただけるように配慮する。</p>
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>開設時にマニュアルを作成し、それを現在も実施している。</p>	<p>現状に応じて、見直しが必要と思われる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に順次参加してもらい、職員の育成に努めている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿賀野市のグループホームとの交流を持ち、意見交換をしている。	お互いの良い所、参考にする所を交流することによって、勉強になっている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一日の勤務中に一時間休憩をとり、利用者から離れて、心身を休めてもらっている。	これからも休憩時間は、休んでもらえるようにする。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	会議や日々の仕事の中で、利用者にとって又、グループホームにとって、良い考え、意見のある時は取り上げて、実施してもらっている。	役割分担で委員を決め、責任を持ち向上していけるようにしていく。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の訴えを良く聞くように努め、出来ることは本人の希望に副うようにしている。	職員の気持ちを押し付けることなく、利用者の言葉、行動をよく観察し、その上で職員がお手伝いをしている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時、利用者の生活歴を聞かせてもらったり、家族の利用者に対する気持ちを聞き、グループホームでのかわり方、生活の流れを聞き、疑問に答えるよう対応している。	入所されるとまかせっきりの家族がいるため、それらの方との話合いが出来るようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の気持ちを良く聞くようにしている。		他の職員の担当だけでなく、他の利用者の家族に説明できるようにする。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ひとりですぐに寝泊りが出来ない利用者には、何日間か家族の方から泊まっていたこともある。		慣れない方には、ご家族から泊まってもらったり、親戚の方が遠方から来られた時には、利用者と一緒に同じ部屋で寝たりしたことがある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩と思い、教えてもらう気持ちを持ち、一緒に生活をしている。		調理や畑仕事でも慣れた人には教えてもらったり、一緒にやってもらったりしている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者とお互いに話をしたり、お茶を飲んだりしている。		一緒に会議をする機会を設ける。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	嫁と姑の関係があり、家族によって違う。		面会時、一緒にお茶を飲んだりする方もあるが、すぐに帰ってしまう方には、ゆっくりできる雰囲気を作って行きたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味としてやってきたことをそのままでは、いけないこともあるが、近い状態でやってもらっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	談話室でお茶を飲んでもらったり、ゆっくり出来る場所をこだわらず、過ごしてもらっている。		天気の良い日には、物干し場でお茶を飲んだり、話を妨げないように配慮する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了された方がいないため、行っていない。		契約が終了しても、同じ阿賀野市民であるので、広報を郵送したりと何らかの形でお付き合いをさせてもらいたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にどのように過ごしたいのかを聞き、出来るだけ本人の意向を取り入れている。		これからも一人ひとりの意向を把握し、その人らしい生活をしていただけるように努める。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「私の生活シート」を入所時に家族の方から記入していただき、生活されてきた様子を教えてもらったり、本人と日頃、話をする中から把握している。		入所時の「私の生活シート」を家族より記入してもらったり、面談の時に教えてもらっている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの出来ることを押し付けるのではなく、やってもらえるか伺いながらやってもらうことで、利用者を把握できるようにしている。		入所するまで生きがいとしてやってきたことや馴染みのことをやってもらっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人のやりたいこと、家族からやって欲しいことを話し合い、プランに取り入れている。		一人ひとりの有するもう力に合った食事作り、又は、掃除をしていただいたり、その人の趣味を楽しんでもらう。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ほとんど三ヶ月ごとに見直しをしている。		体調やレベル低下の変動によって、定期にこだわらず、見直しをしていくようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は、毎日記入し家族などからの情報は、個人記録のほかにノートを作り、情報の共有を出来るようにしている。		ノートに記入された情報をもとに話し合いをし、ケアに生かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態を第一に考え、家族の出来ない所は職員が行っている。		原則的に受診は、家族にお願いしているが緊急の場合、職員が対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	火災時の訓練を消防署に依頼し、利用者からも消火器を使い訓練を実施している。		地域の人から花を生けてもらっている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス活用には及んでいない。		今後、利用者や家族の意向があったら、必要なサービスを利用していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、特に行っていない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診してもらっている。		家族の状況で受診の付き添いが出来ない利用者には、グループホームに往診してもらえる医師に受診している方もいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	嘱託医より定期的に往診してもらい、相談に応じてもらっている。		月二回、往診してもらっている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師による健康管理をしてもらっている。		看護師にバイタルの状態を観察してもらい、かかりつけ医に急変時、相談、指示を得ている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時、退院後の時期など相談している。		退院後も受け入れ、家族、本人も安心していただいている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を迎えられた方が、現在いらっしゃらない。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を迎えられた時について、検討している。		利用者や家族が、グループホームで終末を迎えたいと希望された時には、医療機関と連携していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族の気持ちを第一に考慮している。		家族から本人に伝えてもらい、職員は居所が決まったとしても平常心でケアを続けており、利用者が不安にならないようにコミュニケーションをとっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの生活歴を把握し、尊厳を大切にしている。	利用者によっては、今までの生活に誇りを持っている方もいるので、言葉遣いや対応などに注意し、情報を共有し、プライバシーを損ねないように気をつけている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者の希望を取り入れ、納得してもらい毎日の生活を送るようにしている。	一日に一度は必ず話をし、コミュニケーションを取れるようにしている。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを第一に考え、一人ひとりのペースを大切にしている。	更衣する時には、時間がかかってもできる事はやってもらうよう職員に徹底している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は、グループホームに来てもらい、希望する方が髪を切ってもらっている。	馴染みの店に行って髪を切ったり出来るようにしていきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、片付けは一緒に行っている。	胡麻和え、白和えなどは味付けから全て任せている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	出来るだけ望むことができるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自由に排泄できるようにしている。		介助が必要な利用者には、尿便意に合わせ介助している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴してもらっている。		浴室が寒いのを嫌がる方には、他の方が入った後、浴室が暖まった後に入浴してもらっている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間、日中共に休息は自由にとってもらっている。		談話室で横になっているなど、その方の生活が今までそのようにしていれば、そのようにしてもらっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの希望する趣味をやってもらったり、出来ることはやってもらっている。		カメラを持ち、景色や鳥を撮影している方もいる。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方によっては、財布を持っている方もいる。		下着や衣類など気に入ったものを買ってもらっている。職員が管理している方もいる。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて外出できるようにしている。		事情により、本人が家に行きたいが家族が拒否をする家もあり、全ての方が自由に外出できるとはいかない。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	まだ散歩や買い物、近くへのドライブが現状であり、家族と共に外出は実施できていない。		これからは家族と一緒に小旅行も検討する必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の精神的な安定を大切にしている為、家族と利用者の距離を近づけるために実施している。		月末に担当より日常の生活を書いた手紙を郵送し、希望時は家への電話を行っている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関の鍵を開けておき、面会の方が自由に来られるようにしてある。		面会の方には、居室、食堂など好きな場所で話をしてもらい、お茶を飲みながらのんびり過ごしてもらっている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法について、常日頃より話し合いの中にも含まれており、拘束をしない方向である。		利用者の自由な行動を妨げないようにしている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は、開けておくようにしている。		一部の利用者で慣れるまで、職員が手薄の時に一人で外に行かれることがあったが、隣のフロアの職員と連携し、連絡を取り合っていた。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりのプライバシーを大切に、個人の気持ちを大切にしている。		完全個室とし、希望により管理できる方には、鍵を渡している。入室には、利用者の了解を得てから入室している。危険と思われる時には、職員の判断で入室している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の方に合わせた取り組みをし、安全確保に努めている。		スプリンクラーや火災報知器に関心のある方は、わからないようにカバーをし、危険防止をしている部屋もある。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災時の訓練を実施している。		消防署の方より火災時の避難方法、危険性の指導を受け、消火器を使い消化方法の指導を受ける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消化訓練の時、応急手当の方法の指導を受けるよう依頼したが、その日受けることができなかった。		早い時期に病気の症状に合わせて、応急手当の指導を受ける予定。施設内での研修会を開けるようにする。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所を隣のケアハウスの駐車場にし、協力を依頼している。		火災を想定した訓練を実施している。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所前や面会時に話し合いの時間を作っている。		一人ひとりの既往症や現在の薬の服用の知識や安全管理の徹底をするために家族より情報を得たり、グループホームでの様子を報せている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	マニュアル作成により、対応している。		朝のバイタル測定や顔の表情、排泄の様子、食事摂取量を観察し異変の時は、速やかに職員、家族、医師と連携をとっている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の管理を行い、服薬の必要性や状態を観察している。		一人ひとりの既往症や現在の薬の服用の知識や安全管理、薬が変わった時より利用者の状態の観察を行い、家族に報告している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合った対応をしている。		食事では、食物繊維の多い食材を取り入れる。天気のよい日には、散歩をしたり、体操をしたり、身体を動かす時間を作っている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの対応に違いがある。		自分で出来る方は、自分でうがいや歯磨きをし、誘導の必要な方には職員が介助で行っている。日曜日には、入れ歯洗浄剤で消毒を行い、口腔内の観察を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水にならないように水分、チェックを実施している。		一回に決められた量を摂取できない方には、時間をおき少しでも飲んでもらえるようにしている。当分の多い飲み物に偏らないようにしている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成により、対応している。また、皮膚の状態の観察を日頃から行っている。		発生した場合、マニュアルに副って実施していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアル作成により、対応している。		食材は、毎日買い物に行き新鮮な物を使い、肉、魚類はよく火を通す献立を考えている。毎晩、食器、調理器具の消毒を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の戸は、和風で木を植え、普通の家庭の雰囲気である。		利用者が書いた習字や編んでもらったカゴなどを展示している。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アットホームな雰囲気にして、従来の生活の延長の場となるようにしている。		安心して、親んでもらえるように花を飾ったり、職員も利用者に合わせて行動し、のどかな雰囲気づくりをしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方や一人で過ごしたい時間に、のんびりしてもらえるようソファを置いている。		多人数ではなく、2、3人の話題の合う会話の時に何気なくいることの出来る場所にソファを置いてある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者のプライベートの空間としている。		家で使い慣れた物を持ち込んでもらい、その方らしい部屋を作っている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節や換気にも健康の維持と関係する為、注意を配っている。		空気清浄機の使用をし、その日の天候によっては温度調節をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の運動機能に合わせ、手すりを設置している。		トイレ、浴室、廊下に手すりを取り付けている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの残存機能を生かしてもらっている。		食事作りの手伝いや洗濯物たたみ、掃除などをしてもらっている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	フェンスを設置し自由に出入りが出来る。		出来る方には、自分で布団を干したり、プランターに水やりをしている。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームあんの独自の考えとして、各職員は仕事をしているという気持ちも大事であるが勤務時間中は、各職員もここの住人であるという気持ちで働いている。